

東南アジアにおける 強靱性の構築

防災への投資と革新的な災害リスクファイナンスの促進

概要

対象国 カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、
ミャンマー連邦共和国

災害リスク 河川氾濫、都市洪水、地震、台風、
サイクロン、地滑り

取組分野 気候変動に対する強靱性の向上、
水文気象サービスと早期警報システムの強化、
財政保護の充実

「日本－世界銀行防災共同プログラム（Japan-World Bank DRM Program）」*は、長年にわたり極端な水文気象変動にさらされてきた地域において、災害リスク削減、災害リスクファイナンス、水文気象サービスを支援するとともに、新たな災害リスク保険ファシリティの基盤づくりを行ってきました。

地域ごとの対策が必要な特有の課題

東南アジアでは、長年にわたり水文気象変動に対処してきましたが、洪水や干ばつ、極端な気象現象は依然として深刻な問題です。災害による影響が増加する中、災害を管理する能力の有無によって国の成長と開発は大きく左右されます。

カンボジアはさまざまな災害に見舞われており、なかでも洪水や暴風、干ばつが多発しています。2009年には台風ケツァーナ（Ketsana）に襲われ、2011年と2014年には大規模洪水が発生し、被害総額はそれぞれ1億3200万ドル、6億2500万ドル、3億5700万ドルにのぼりました。この国では、経済成長・発展に欠くことのできない道路網が著しく脆弱です。

ラオスは、2009年と2011年の2度にわたり大型台風ケツァーナとハイマー（Haima）に見舞われ、2013年には洪水も発生しています。最近では2018年に国内各地で洪水が発生し、その被害総額は過去10年間で最高額の3億7150万ドルにのぼりました。国民の大多数が災害による影響に対して非常に脆弱とされています。



2017年にラオス・ウドムサイ県で発生した洪水で路上に倒れた電柱
(出典：世界銀行)

ミャンマーは、2008年にサイクロン・ナルギス（Nargis）に見舞われました。同国を襲った自然災害としては過去に例を見ないナルギスは、多くの人命を奪い、甚大な被害をもたらしました。2015年には大規模な洪水と地滑りが発生し、2015年から2016年にかけての経済損失額は、推計で2014年GDPのおよそ1.7%に相当します。ミャンマーでは、都市部を中心に急速かつ無計画に進んだ都市化によって災害への脆弱性が深刻化しました。

強靱化にむけた投資の基盤づくり

日本－世界銀行防災共同プログラムは、東南アジアにおける開発、持続可能性、強靱性の関連を認識した上で、災害リスク削減、災害リスクファイナンス、水文気象サービスの3分野における戦略的投資機会の特定を支援することを目的に、カンボジア、ラオス、ミャンマーの3カ国に250万ドルのプロジェクトを拠出しました。

この拠出は、国家や地方地域など、さまざまなレベルにおいて、分析や助言、能力強化を通じて、災害と気候変動に対する強靱性を強化するために活用され、主に優先対象国への投資のほか、財政の強靱性と水文気象サービスの分野で地域連携の促進につながる活動に活用されました。

*途上国における防災の主流化を目的に、日本と世界銀行が設立した共同プログラム

